

患者向け図書サービス運営の現状と今後の課題

山田いづみ、石川和美、木下葉子、敷根せつ代
医療法人大雄会 能力開発部（図書室）

I. 患者向け図書サービス開始の経緯

2006年4月の新図書室設置当初より、患者図書サービスは当法人で計画されていた。構想段階では患者用図書室と職員用図書室を分け設置する方針であったが、具体化しなかった。実際に計画が加速したのは、院内に設置された意見箱に「図書室を一般にも開放して欲しい」という要望からだ。全国他施設の情報を收拾し「公開型」でも開設は不可能で無い、という結論に至り2007年2月より、週3回（月・水・金）、午前中を一般開放日としてサービスを開始させた。

II. 運営開始に向けた準備

サービスを始めるにあたり、一角に「患者向け図書コーナー」を設けた。当初は製薬会社等が作成する一般向けのパンフレットやインターネットを中心に提供し、平成19年度には約100,000円の予算を設け一般向けの医療・健康に関する図書を購入している。

院内から患者が病院図書室を閲覧する事で生じる問題を指摘する意見もあったが、患者向け図書室案内中に利用のガイドラインを記し、図書室におけるサービスの姿勢を明確にした。また、院内の感染管理認定看護師長から室内の清掃方法や、図書室入り口に消毒液を設置についてアドバイスを受けた。

III. サービスの動向

1. 入室者動向

サービス開始の2007年2月から5月まで、196名の利用があった（5月より月曜日から金曜日まで開室）。

入室記録から利用の属性を調査した結果、「入院患者」（79名、40.31%）と最も多く、次いで「付添い」（71名、36.22%）、「外来患者」（43名、21.94%）であった。患者とその家族で利用するケースが見受けられた（データ収集は2007年5月末現在）。

なお、サービス概要は表1の通り。

表1：医）大雄会図書室 患者図書サービス概要

面積	43 m ²
開室時間	平日 11:00-13:30
一般向け図書蔵書数	109 冊
貸出	不可
インターネット接続可能PC	3 台
コピー機の利用	可（10 円/枚）

2. レファレンス事例

受付けたレファレンスは2007年5月末で11件。『メルクママニュアル家庭版』をはじめ、読みやすい一般向けの図書を中心に案内している。より深い内容を希望される利用者には学術雑誌の閲覧を希望する例もあったが、多くの場合は看護系の疾患別テキストを案内している。

IV. 今後の課題

「週刊誌や娯楽的な本が見られると思った」という意見が多かった当初に比べ、治療に積極的に介入しようという患者さんの利用が増えている。病院図書室の公開を行った次段階である今、サービスの質の向上、とりわけ患者さんの状態に合わせた情報要求に対応できる幅広い情報提供が必要であろう。